## I 事業計画書

私たちは、新型コロナウイルス感染症の経験から、改めて「人と人がつながることや共助の大切さ」など、55年前の設立の思いを再認識しました。その経験の一つひとつを糧としつつ、2021-2023中期経営計画の最終年度となる2023年度は、ビジョンに掲げた「変化に対応し、提案とサポートを通じて、会員に寄り添い・つながり・支え続ける厚生会」の具現化に向け、課題解決型の提案活動を積極的に推進します。

また、変容する社会において、「ヒト」を大切にするという基本に立ち、会員や会員家族、厚生会で働く職員の「Well-being」の実現をめざし、福利厚生の向上と生活の安定につながる事業の充実に取り組みます。そのためにも、各事業の制度や価値を周知徹底し、認知度向上に努めるとともに、会員の多様化する価値観に応えるため、「厚生会だからこそできる事業」と認められる活動を推進し事業参加の拡大を図ります。

主な取組みとして、つながり強化や充実に向け、会員と接する機会の新たな「場」を創出するとともに、SNSを活用したコミュニケーションの方法を構築します。また、各種手続きの利便性向上や職員の働き方改革等に資する新システムについては、2024年度中の本稼働をめざし計画通りに進めます。

会員の自発的、自主的な活動を推進するため、教育現場の支援等を通じて退職会員の生きがいづくりの実現を図る「兵庫県学校厚生会 学校園サポート人材バンク」や、会員相互の交流やつながりを支援する「会員交流支援事業」を実施します。

あわせて、セーフティネット構想のさらなる推進に向け、会員同士が支え合い・助け合う仕組みづくりを有限会社学校厚生会と連携し取り組みます。

一方、持続可能な組織運営をめざすため、今後5年間の収支予測を見据え、費用対効果や受益と負担、事業の持続可能性などの観点から、各事業の制度変更等を検討します。

なお、定年引上げに関する対応では、会員資格や各事業の取扱いに係わる変更内容等の周知 徹底を図り、個々の状況に応じた丁寧な対応を行うなど、総合福祉団体として会員サービスの 向上に努めるよう組織一丸となって進めていきます。